

# ミートアップ型ピアラーニングコミュニティによる オンライン授業の学修効果向上の試み

宮崎 耕

同志社大学 経済学部

kmiyazak@mail.doshisha.ac.jp

学修活動の場としての学修者コミュニティは、教育・学修効果を高めるために不可欠なものといえる。本論文では、オンライン授業の教育・学修効果向上を企図するO2Oソリューションとして「ミートアップ型ピアラーニングコミュニティ」の導入を提案するとともに、試行事例における検証結果を提示する。

## 1 はじめに

学修活動の場としての学修者コミュニティは、教育・学修効果を高めるために不可欠なものといえる。本論文では、オンライン授業の教育・学修効果向上を企図するO2O(Online to Offline)ソリューションとして「ミートアップ型ピアラーニングコミュニティ」の導入を提案するとともに、試行事例における検証結果を提示する。

## 2 オンライン授業における学修者コミュニティ

### 2.1 オンラインコミュニティ

インターネット授業のようなオンライン授業では①毎回の授業の実施に当たり教員・学生間の設問解答・添削指導・質疑応答等を行うこと、および②当該授業に関する学生同士の意見交換の機会が確保されていることが授業の要件とされている。(表1)

表1 平成十三年文部科学省告示第五十一号\*

大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく 大学が履修させることができる授業等	
通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において、大学設置基準第二十五条第一項に規定する面接授業に相当する教育効果を有すると認められたものであること。	
一 同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所(大学設置基準第三十一条の規定により単位を授与する場合においては、企業の会議室等の職場又は住居に近い場所を含む。)において履修させるもの	二 毎回の授業の実施に当たって設問解答、添削指導、質疑応答等による指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの

\*文部科学省ウェブページより抜粋。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/k20010330001/k20010330001.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/k20010330001/k20010330001.html)

これらの要件は、具体的にはLMS(Learning Management System)やSNS(Social Networking Service)が提供するオンラインコミュニケーション機能によって満たされているが、多くの場合、

教員・学生間のコミュニケーションに比べて、学生同士のコミュニケーションは活発ではない。そのため、オンラインコミュニケーションを通じて学修者主体のオンラインコミュニティが形成されるケースは、ほとんど見当たらない。(図1)

また、学修者からのフィードバックが反映された成熟度の高い授業コンテンツでは、質疑応答の必要性が低くなることよって、学生同士はもとより、教員・学生間でもコミュニケーションの頻度が低くなる傾向がある。(図2)<sup>[1]</sup>

オンラインコミュニケーションの活性化によって、オンラインの学修者コミュニティを形成することは容易ではなく、実現しようとするれば、教員サイドの負担は多大なものとなる。

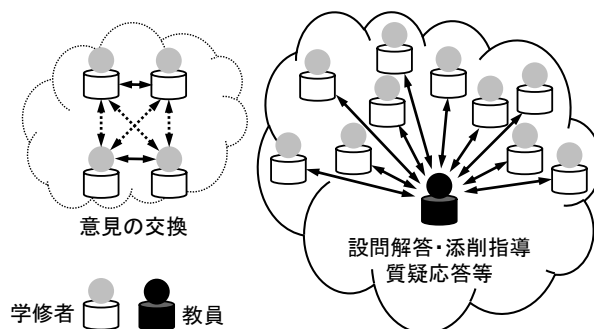


図1 オンラインコミュニケーションの比重

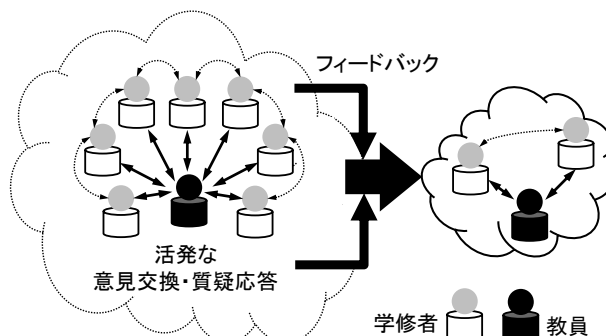


図2 オンラインコミュニケーションの遞減傾向

## 2.2 オフラインコミュニティ

反転授業(Flipped Learning/Class)等のブレンデッドラーニング(Blended Learning)では、オンライン授業とともに行われる教室での授業——オフラインの学修活動を通じて、オフライン/オンラインの学修者コミュニティが比較的容易に形成されると考えられる。(図3)

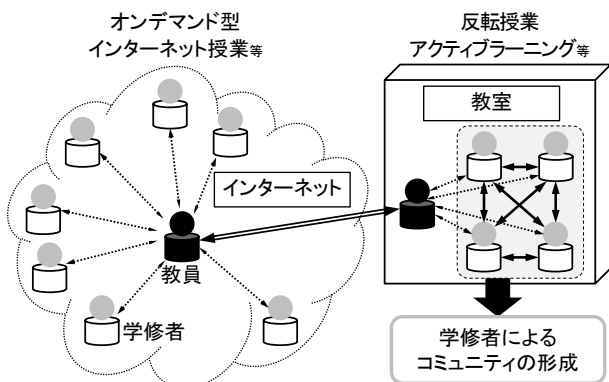


図3 ブレンデッドラーニング

しかしながら、インターネット授業のように、学修活動がオンラインだけで完結するスタイルの授業では、当該授業の学修活動の場としてのオフラインの学修者コミュニティが形成されることは極めて稀である。

## 3 ミートアップ型ピアラーニングの特徴

### 3.1 オンライン授業におけるO2Oソリューション

ミートアップ(Meetup)型ピアラーニングは、オンライン授業を通じて学修者主体のオフラインコミュニティの形成を促し、形成された学修者コミュニティの参加者がオフラインの学修空間に集まって「ピアラーニング」(Peer Learning)や「ピアティーチング」(Peer Teaching)などの学修活動を行うものである。(図4)

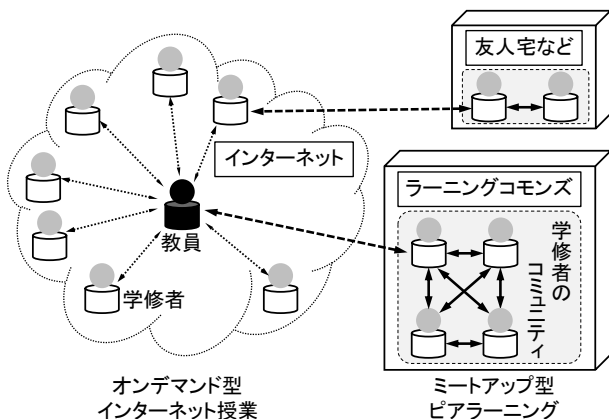


図4 ミートアップ型ピアラーニング

## 3.2 教員サイドの負担は限定的

ミートアップ型ピアラーニングでは、従来のオンライン授業の方法や仕組みを変更する必要はなく、また、オフラインの学修空間も既設の設備をそのまま活用することができる。

また、教員は基本的にはオンライン授業においてオフラインでのピアラーニングを奨励し、学修者による自発的なオフラインコミュニティの形成を促すだけでよく、教員サイドの負担は極めて少ない。

## 4 試行事例

### 4.1 概要

本稿では、つぎのような通学制大学文系学部基礎科目での試行事例をしめす。(表2)

表2 試行事例の概要

開講時期	2013年度 春学期	2014年度 春学期
開講学部	同志社大学 経済学部	
担当者名	宮崎 耕	
科目名	IT基礎論1*	
配当学年	1年生	
履修登録者数	993名	990名
単位数	2単位	
授業方法	オンデマンド型インターネット授業	

※本科目では教室で通常の面接授業を行うクラスも開講されているが、本稿で対象としたのは、オンデマンド型インターネット授業を行う本表記載のクラスのみである。

### 4.2 ミートアップ型ピアラーニングの奨励

本科目では毎回の授業の実施に当たって行う設問解答に加えて、適宜オンライン小テストを実施している。実施の際、小テスト冒頭につぎのような注記を行うことにより、受験者にミートアップ型ピアラーニングコミュニティの形成とコミュニティでの学修活動を奨励している。(表3)

表3 ミートアップ型ピアラーニングの奨励文言例

【受験上の注意】 ←必ずよく読んでください。
★重要★グループ学習について
答案の作成にあたり、ラーニングコモンズなどでグループ学習を行うことを奨励します。ただし、各自が提出する答案は必ず本人が作成してください。なお、共通の誤答が発生した場合などに不正行為とみなされることのないよう、グループ学習を行った場合は、必ずグループのメンバー全員の学生IDを申告(設問に回答)してください。

### 4.3 学修者コミュニティの形成状況

各年度の学修者コミュニティの形成状況はつぎのとおりである。(図5)

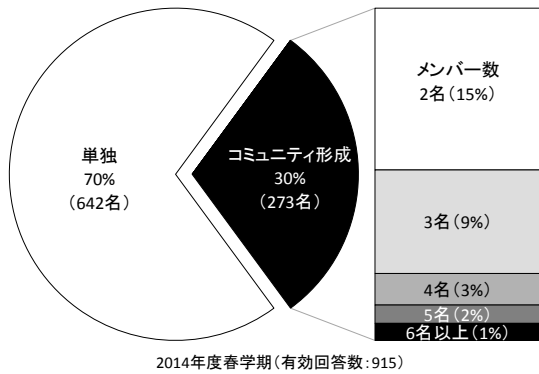
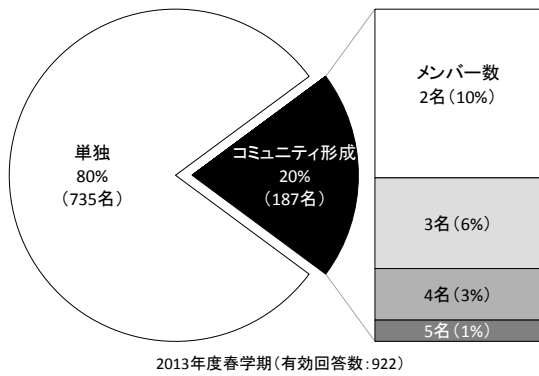


図5 学修者コミュニティの形成状況

「ミートアップ型ピアラーニング」を初めて試行した2013年度春学期には、小テスト受験者のうち2割の者がコミュニティを形成して学修活動を行った。2014年度春学期には、この割合が3割に増加している。

コミュニティのメンバー数は2名が半数を占めるが、2014年度春学期には6名以上(最大8名)のコミュニティも見られる。

また、2014年度春学期にミートアップ型ピアラーニングが行われた場所はつぎのとおりである。(図6)

コミュニティ参加者全体の4分の3程度は大学内でミートアップ型ピアラーニングを行っており、

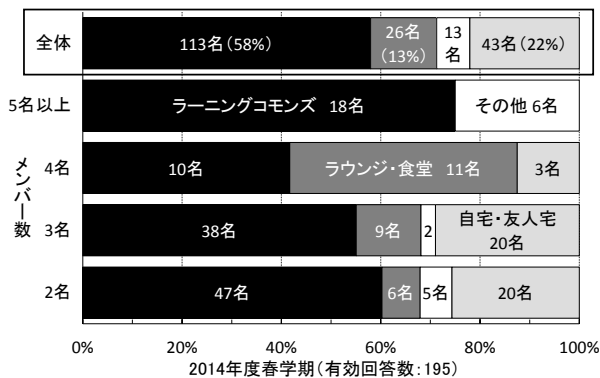


図6 ミートアップ型ピアラーニングの実施場所

自宅や友人宅などの学外での実施者は2割強にとどまる。この割合には、本事例が通学制大学での試行事例であることが影響していると考えられる。

#### 4.4 教育・学修効果の検証

ミートアップ型ピアラーニングコミュニティへの参加の有無と当該科目の成績評価との関係はつぎのとおりである。(表4)

コミュニティ不参加者(単独学修者)のG P (Grade Point)平均値が 1.80 にとどまるのに対して、コミュニティ参加者(メンバー数2名以上)のG P 平均値は 2.10 と明らかな差が生じている。

また、メンバー数が多いコミュニティほどG P 平均値が高くなる傾向があることも注目される。メンバー数4名以上のコミュニティに参加している者のG P 平均値は 2.31 であり、特にメンバー数5名の場合は 2.33 に達している。また、メンバー数6名以上のコミュニティには不合格(F 評価)となった者はいない。(図7)

表4 試行事例におけるG P 平均値の分布

メンバー数	G P 平均値*		
6名以上	1.89	2.10	2.29
5名			2.33
4名			2.31
3名			2.04
2名			2.05
単独			1.80

2014年度春学期(有効データ数:915)

※成績評価とG P の対応は下記のとおり。

A(秀):4.00, B(優):3.00, C(良):2.00, D(可):1.00, F(不合格):0.00

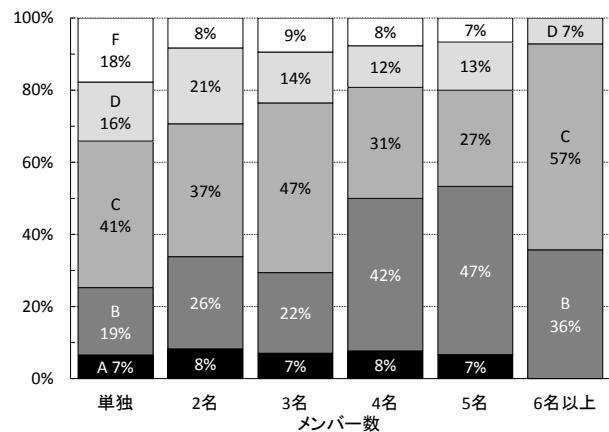


図7 試行事例における成績評価の分布

## 5 おわりに

本論文では、「学修活動の場としての学修者コミュニティは、教育・学修効果を高めるために不可欠なものである。」との認識に基づいて、①オンライン授業において学修者コミュニティの形成を促進するための施策を提案するとともに、②形成された学修者コミュニティにおける学修活動が教育・学修効果向上に有効であることを、試行事例によって検証した。

以下に本稿の概要を整理してむすびとする。

- ①ブレンデッドラーニングではない純粋なオンライン授業では、学修者コミュニティを形成することは容易ではなく、形成するためには教員サイドに多大な負担がかかる。
- ②「ミートアップ型ピアラーニング」は、オンライン授業においてオフラインコミュニティでの学修活動を促し、教育・学修効果を向上させるための「O2Oソリューション」である。
- ③「ミートアップ型ピアラーニング」とは、具体的には、オンライン授業を通じて学修者主体のオフラインコミュニティの形成を促し、形成された学修者コミュニティの参加者がラーニングコモンズなどの学修空間に集まって「ピアラーニング」、「ピアティーチング」などの学修活動を行うものである。
- ④「ミートアップ型ピアラーニング」では、既存のオンライン授業の方法や仕組み、既設の学修空間をそのまま活用できるため、教員サイドの負担は限定的である。
- ⑤ミートアップ型ピアラーニングコミュニティ参加者の成績(GP平均値および、成績評価の分布)は、コミュニティ非参加者の成績に比べて明らかに高く、「ミートアップ型ピアラーニングコミュニティ」での学修活動が教育・学修効果向上に有効であることを確認できる。

## 参考資料

- [1] 宮崎 耕,「オンライン授業の新段階—学習スタイルと学習環境の変化に関する考察—」, 大学ICT推進協議会2012年度年次大会論文集, pp.97~99, 2012年